社協だより

第193号
2022. 3. 1
点字・拡大・音訳版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会　〒822-0026 福岡県直方市津田町7番35号
TEL 0949 (23) 2551　FAX 0949 (23) 2552
e-mail : nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp　HP : http://www.nogatashakyo.org/

子どもの心を支えたい

遠賀川流域の子どもの福祉を考える研究会が、令和４年１月22日・23日にイオンモール直方で、子ども食堂の啓発活動を行っている様子。詳しくは３ページの地域の輪をご覧ください。

もくじ

●令和３年度地域福祉セミナー
若年性認知症…… 2
●会長就任あいさつ
地域の輪（遠賀川流域の子どもの福祉を考える研究会）
図書室（キッパリ！）…… 3
●お知らせ
（第46回直方市ボランティアのつどい・認知症カフェ開催・ピア・スペース７番地開催）
ご寄附…… 4

kantera

カンテラ

市議会から知る 子どもの支援

直方市議会を、動画共有サイト「YouTube」で、手軽に傍聴できるようになりました。私も市の現状や施策を知るため、議論を拝聴しています。

議会では子どもの教育福祉についての話がよく議題にあがっています。昨年６月議会で、議員からの「コロナ禍による子どもの貧困をどう認識しているか」という質問に対する、市当局の「貧困率は集計していないが、代わるものとして、義務教育課程の児童に対する就学援助利用数が31％に増加した。」という旨の答弁がとても印象に残っています。

直方市では、約３人に１人の子どもが学習費用の支援対象となる家計状況にあることに現実の厳しさを知り、私が子どもの時に家庭の経済状況や環境を敏感に感じていたことを思い返して、子育ての経験はなくともいたたまれない気持ちになりました。何とか共助・公助によって、子どもに寄り添った支援が行き届くことを願うばかりです。

（藤田）

この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

令和３年度　地域福祉セミナー
若年性認知症があっても今を楽しく生きる

令和３年度地域福祉セミナーでは、第１回目（令和３年10月２日）に福岡県認知症介護指導者の川島豊輝さんと、若年性認知症の人と家族の会「ローズ・マリー」会長の岡山和行さんを、第２回目（令和３年12月４日）に福岡県認知症介護指導者の中村益子さんと、若年性認知症当事者とその家族の方々を講師にお招きし、若年性認知症の特性や体験談等についてご講演いただき、若年性認知症の現状や正しい知識を学びました。

●若年性認知症とは？

認知症は高齢者だけに起きるものではありません。65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」と呼びます。（「若年性認知症」という診断名ではありません）若年性認知症の方は全国に5～7万人程いると推定されています。

●当事者や家族同士で集まる場の大切さ

川島さんから「今、認知症という診断の告知があった場合、必要とする人は誰ですか？」という問いかけがありました。多くの人が「家族」と答えると、「家族と手をつないで町を歩くことや、一緒にお風呂に入ることはできますか？」と続けました。「息子と入れますか？」「娘なら入れますか？」「孫はどうですか？」など、いくつか質問が続きましたが、「友達と一緒に温泉に入ることはできますか？」と聞いた時に一番手が上がりました。「家族だから難しいこともありますよね。」という川島さんの言葉に会場の方々も深く頷いていました。

認知症と診断された時、「誰に相談すればいいのだろうか。」「同じ立場の人はいないのか。」と思うのではないでしょうか。そういった方が孤立しないよう、現在多くの地域で認知症当事者や家族の会が盛んに活動しています。

●当事者や家族の話を聞いて

中村さんは年1回行われる若年性認知症交流会で、当事者の方の「また会いたいね。」という言葉を聞き、若年性認知症の当事者や家族のサロン「さろ～んパス」を立ち上げました。そこでは、それぞれができることをして、できないことは無理をしません。誰もせかしたりしないで、自分のペースで活動します。ある日参加者の1人が「今日、妻の誕生日だった。」と言うと、参加者みんなで協力して、手芸作品のプレゼントを作ったというエピソードを聞き、とても温かさを感じました。

参加者の方からは、「診断直後はとてもショックだった。家にひきこもっていたら妻に連れられてさろ～んパスに参加した。こんなところがあるのか、とみんなに会うのが楽しくなったし、他の人と楽しそうに話す妻を見てすごくうれしくなった。」という声が聞かれました。

セミナー後のアンケートを見ると、「今後、本人や家族のつどいや交流会を開催してほしい。」「地域に必要な場所だと思う。」「認知症ではない方々の集まりではうまくいかなかったので、このような場所で元気になってほしいです。」など、地域で同じ立場同士で集まれるような場を希望する声が多く見られました。

●交流会の開催

直方市社会福祉協議会でも、若年性認知症当事者と家族のつどいを開催します。当事者や家族などが参加し、それぞれ同じ立場の方とお話します。開催日程等が決まり次第、直方市社会福祉協議会のホームページなどでご案内いたしますので、ぜひご参加ください。

また、認知症の人と家族の会直方でも認知症カフェを開催します。詳しくは4ページをご覧ください。

●セミナーに参加して

人生百年時代といわれていますが単純に喜んでばかりはいられない様です。人は年を重ねるごとに足腰、内臓と様々な機能が衰え病気になりますがその一つに脳の病気があります。相手が誰か分からなくなる、自分がどこにいるのか分からなくなる、普段当たり前にしていたことが突然できなくなるなど、本人ではどうにも対処の仕様がないようです。自分が自分でなくなる事が自覚できるが、自分では何の対処もできない。本人の怒りや困惑はいかばかりでしょうか。

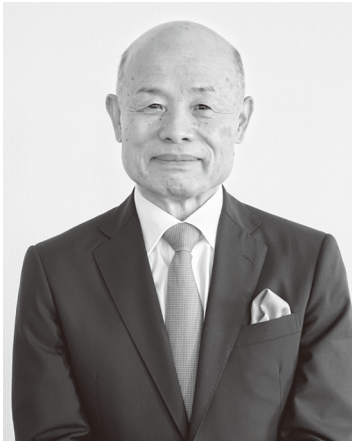
予防をするには日頃から食生活に気を配り、人との交流により気持ちを生き生きと保つことが大事なようですが、この病気にかかってしまったら周りの援助が無ければ健康に生きていけません。介護施設等の社会資源と共に家族の理解、援助が不可欠になります。先日男性介護者のつどいに参加した時、参加者の一人の「人間修行と思って介護しています。」という言葉を聞き、「相手のためにしてあげている」という認識ではなく、「自分のためになっている」という気持ちで関わっている姿に胸を打たれました。

認知症に対する家族の介護は大変なことも多く、どうしても余裕がなくなりがちですが、この様に人間の尊重という問題に真剣に向き合わなければならないと思いました。

（石黒）

この社協だよりは、点字版・拡大版・音訳版もあります。ご希望の方はご連絡ください。

会長就任あいさつ



会長　一尾　泰嗣

桜便りも聞かれる頃合いとなってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度、令和3年12月18日付けで社会福祉法人直方市社会福祉協議会会長に就任いたしました一尾泰嗣（いちおやすし）と申します。

昨今の地域福祉活動は、新型コロナウィルスの感染拡大によって大きく影響を受けておりますが、地域課題は複雑化・深刻化しています。一例ですが、市内では高齢者単身世帯が一般世帯の15％を超えて増加傾向にあります。地域の中で孤立することのないようにすることが課題があり、それぞれにどう向き合っていくか。行政が手の届かない部分こそ社会福祉協議会が担わなければなりません。

これらの課題解決を図るために、各種関係機関と新たなつながりも創っていきながら、誰ひとり取り残さない持続可能な福祉（SDGs）の実現に向けて尽力してまいります。今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

8050問題…80代の親が50代のひきこもりとなった子どもを扶養し、親も高齢化し働けなくなったことにより、生活困窮や、社会から孤立するなどの問題を抱えた世帯が増えていること。です。また、障害のある子どもを持つ親御さんの一番の心配である「親なき後」の問題。そして子どもの不登校・ひきこもりや貧困、さらには8050問題等

地域の輪

地域に根ざした独自の福祉活動を紹介します。

遠賀川流域の子どもの福祉を考える研究会

私たち「遠賀川流域の子どもの福祉を考える研究会」（以下研究会）は令和3年4月に発足しました。コロナ禍で経済的に困窮する子育て家庭が増加したことや、学校への行き渋りや自傷行為などを呈する子どもが増えていることに危機感を抱き、子どもの心や生活を支える為に何かできないかと思い、この研究会を始めました。

研究会では、会のメンバーと地元の方で、情報交換や意見交流をしながら活動を行ってきました。これまでの主な活動は、筑豊地区（直方市・小竹町・嘉麻市・糸田町）での子ども食堂の開催・運営や子ども食堂啓発イベントの開催です。

また、令和4年1月22日（土）・23日（日）に、イオンモール直方1階中央エスカレーター前広場で、子ども食堂を紹介する啓発イベントを開催しました。子ども食堂の写真やポスターを掲示し、地域における子ども食堂の役割や重要性を伝えました。

これからも、子ども食堂の開催などを通じて、子どもや大人が集える居場所を地域で作っていきたいと思います。また、子ども食堂などの居場所づくりを行っている団体とつながって、地域における子どもの居場所を広げていく活動にも取り組んでいきたいと考えています。

直方イオンでの
啓発活動の様子

図書室

「キッパリ！」

著　者　上大岡　トメ
発　行　幻冬舎文庫
直方市立図書館　所蔵

今のままの自分に疑問を持っていませんか？ここに60個の簡単に自分を変える方法があります。

今すぐできて簡単。お気軽で、大した覚悟もいらず、大金もかからず、時間も5分で十分。たとえ5分でできなくても、決断は5分と掛からないものばかり。読んでみて「できそう」と思ったら、とりあえずやってみてください。些細なことでキッパリ！自分って変わっちゃうんです。

これなら自分にもできそうと思える簡単なものばかり。その中から効果があったものから続けてください。ほんの些細なことでも、自分で「やろう！」と決めたことができると、達成感から自信になります。

（広田）

ひきこもり相談受け付けています。お悩みの方はご連絡ください。

「福祉なんでも相談」受付中！お困りのことがあったらお気軽にご相談ください。

ここでお知らせしている行事は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止や延期、開催時間・場所の変更などがある可能性があります。参加される方は、変更等がないか事前にお問い合わせください。

第46回　直方市ボランティアのつどい

心をくみとり、寄り添う傾聴
～聴くということ～

傾聴ボランティアについて、北九州市傾聴ボランティアひだまりの樹代表の毛利（もうり）　暁子（あきこ）さんにお話ししていただきます。

■と　　き　令和4年3月27日(日)13時30分～15時
■と ころ　直方市中央公民館　第3学習室
（直方市津田町7-20）
■対 象 者　興味のある方
■定　　員　50名
■参 加 費　無料
■主　　催　直方市ボランティア連絡協議会
直方市社会福祉協議会
■共　　催　障がい者問題を考える直方市連絡会議
■問い合わせ　直方市社会福祉協議会
☎0949（23）2551

認知症カフェを始めます

認知症の人と家族の会直方では、認知症の人と家族が寄り添える居場所を作るため、認知症カフェ「さろ～ん のおがた（仮称）」を令和4年3月から開催します。

認知症の本人と家族が定期的につどい、みんなでおしゃべりをする場です。自分がしたいことやできることをすることで、役割を持てる場にして、にこにこ元気になれる居場所づくりをしていきます。

時間内であれば、いつ来ても、どれだけいても大丈夫です。また、一緒にお手伝いをしてくださる方も大歓迎です。どうぞお気軽にお越しください。

■と　　き　毎月第1土曜日　13時～16時
■と ころ　直方歳時館（直方市新町1丁目1-18）
■対 象 者　どなたでもどうぞ
■参 加 費　200円（家族の会会員）
300円（家族の会以外の方）
■申 込 み　不要
■問い合わせ　認知症の人と家族の会直方
☎090（4347）1833

ピア・スペース7番地

居場所運営協議会では、障害の有無などに関わらず、誰でも集まれる場所を直方に作るため、フリースペースを開催しています。時間内であれば、いつ来ても、どれだけいても大丈夫です。どなたでもぜひ気軽にご参加ください。

■と　　き　毎月第3土曜日　13時～15時
■と ころ　直方市男女共同参画センター
（直方市津田町7-20）
■対 象 者　どなたでもどうぞ
■参 加 費　無料
■問い合わせ　居場所運営協議会
代表　今山　☎090（1348）7759

ご寄附ありがとうございます。

令和3年11月11日から令和4年2月10日
12件　合計金額　52,562円
（お名前は承諾された方のみ掲載、敬称略）

香典返し寄附金
- 溝堀　（故）橋田　守義

一般寄附金
- 編み物教室　いとあそび
- 匿名　1件

未使用はがきと切手
- 匿名　9件

編集後記

若年性認知症、まさに読んで字のごとし。65歳未満の認知症を若年性認知症と提示している。

高齢者の認知症状との違いは、老化現象がない分、目立ちやすく、周囲の人が変化や進行を感じやすいと言う特性がある。なによりの違いが、生活環境や介護者の負担など、患者さんを取り巻く状況である。

まさか！という思いから受診が遅れる。体調不良ぐらいの認識で、相当日時が経過後、若年性認知症と診断され、家族の大きな不安が噴出する。（広田）

車いすなどの物品の貸し出しをしています。詳しくはお問い合わせください。